



## PK+M ビーケーマグ

- 発酵してあるからムダなく効率よく効きます。
- 過剰なチッ素を素早く消化させます。
- 花ぐされ予防に効果的です。

## 菊づくりは土が基本、微生物の働きをよくすることが解決の近道

### 秋に起きる困った問題は土づくりから引き継いでいることが多い

夏から秋にかけて起きる大きな問題は「根いたみ・根ぐされ」や「肥料残り・チッ素過剰」です。

今年も夏の暑さは厳しく全国的に発生しています。

根いたみ・根ぐされは、肥料の与え過ぎや水掛けの失敗、さらに定植時の植え方の失敗によるものが多く見られます。

肥料残りやチッ素過剰は定植時の鉢中への多量施肥や与え過ぎ、肥料成分無視の与え方などが主な原因です。

その結果が生育不良です。

また暑さによる肥料要素の欠乏症の発生も見られます。

これらはひとつの原因で発生する場合がありますが、いくつかの原因が重なって発生することが多いと考えられます。

近年、夏の暑さは厳しさを増し、ビニールハウス内の温度は40度を超えることもめずらしくはありません。

鉢土の温度はさらに高温になることが予想されます。菊に「夏バテ」があてはまるかどうかは、わかりませんが草勢の低下は避けられません。

さらに鉢土温度の上昇は土中微生物の生態に変化が起きることになります。

高温に耐えられない微生物は死滅し、微生物相合のバランスが崩れたり減少したりすると考えられます。

土中微生物は20度～25度程度の土中に棲息している為です。

微生物が減少し活動が低下することは、土本来の機能が低下することです。

最初に起きるのが通気性や排水性を保つ土の団粒構造が維持できなくなり、酸欠状態が発生し、根の活力が低下します。

酸欠状態が発生すれば「根ぐされ・根いたみ」が起きます。

根の活力が低下すれば、栄養分（肥料分）や水の吸収が悪くなり生育不良となります。

さらに根の活力低下は根毛の発達不良をとめない、リン酸やカリの吸収を阻害し「葉色をドス黒くしたり」「葉がタレ下がったり」「巻き込んだり」チッ素過剰の生育をします。

夏の暑さは目に見えない鉢の中ではこんなことが起きています。

鉢の中ではこのようなことが起きていることを前提に「肥料の与え方」「水の掛け方」「栽培環境」などを整える必要があります。

### 暑さ対策は土・肥料・栽培環境など総合的に考えないと解決しない

暑さ対策に「これひとつで大丈夫」と言う特効薬的な手立てはありません。

土・肥料・水掛け・植え込み方法など地道に見直していく以外に方法はなさそうです。

植物栽培の基本は“土づくり”であり、土をいかに良い状態に保つかが最重要です。

基本は「土の活性化」であり、いかに土中微生物の増殖や働きを活発にするかです。

その為には化学肥料や化学肥料中心の肥料の与え方はしない。

有機肥料又は有機肥料中心の与え方がなにより大切です。

土中有益微生物は有機物を栄養源に増殖や活動をするからです。

—— 有益微生物の働きを活発にし、土の通気性や排水性などを維持・改善し根の働きを活発にし生育を促す ここがポイントです ——



◀ 夏バテの菊  
品種によりますが葉脈で区切られた部分が黄化する



夏バテのバラ ▶  
葉は小形になり黄化する